



土木学会 平成 14 年度 全国大会研究討論会 開催報告

テーマ『コンサルタントの進化論 -その立場と役割・使命の変化- 』



研究討論会の開催主旨：

現在、わが国の公共事業の執行システムに変化が生じている。同時にコンサルタントも意識・立場・役割・行動の急速な自己変革を迫られている。かつてわが国の近代化や高度経済成長のために重要な役割を担ってきた公共事業が、今後は持続可能な発展に寄与する事業の質と量へ変化してゆく。コンサルタントも、これまでの技術サービスから、新たな視点・立場・資質でのマネジメントサービスが要求される。

討論会では、海外プロジェクトに多い三者関係を含めた公共事業執行形態の今後の姿と、事業遂行時に不可欠となる合意形成参加者間のコミュニケーション形態の今後の変化を見据えながら、コンサルタント技術者の自己改革の方向を探る。



研究討論会の参加者



駒田座長挨拶、話題提供者：小磯氏、佐橋氏

開催日時およびプログラム

開催日時：2002年9月25日(水) 16:30 ? 18:30

於：北海道大学 工学部 B・C棟 C301教室

座 長	： 駒田 智久	コンサルタント委員会委員長 日本技術開発(株) 取締役常務執行役員
話題提供者	： 小磯 修二	釧路公立大学教授 地域経済研究センター長
	： 佐橋 義仁	(株)建設技術研究所 マネジメント事業部長
会場司会	： 安江 哲	コンサルタント委員会副幹事長 (株)ドーコン構造部長

開催報告要旨：

全国大会初日の北海道はすがすがしい秋晴れ！ 広い北大キャンパスの中では当委員会主催の研究討論会会場は迷い込みそうな一角であったが、総勢 50 名弱(うち、5 名が学生)の参加者を得て開催された。

かつて官側での政策現場キャリアを積み、現在は、学での研究活動と JICA 専門家としての ODA 活動をしている小磯氏からは、これまでのような技術一辺倒のコンサルタントではなく、進化するには政策提案が必要不可欠となること。また、わが国の二者構造(発注者と委託ないしは請負契約者)間で生じている相互補完関係作業(契約グレーゾーン)の正業化を目指す佐橋氏からは、コンサルタントの技術顧問業への進化について具体的な提案がなされた。

今回は、話題提供者を 2 名に絞り込んだため、プレゼンテーション及び話題に対する質問と補足説明に十分な時間がとれ、その後の会場を含めた研究討論が非常に理解し易いものとなった。最後に、座長より、進化論に向けた提案の場として、こうした学会活動の場を十分に活用すべきであると総括され、2 時間の熱心な討論会はあっという間に終了した。

[当日配布資料](#)

[こちら](#)

[討論状況資料](#)

[こちら](#)

